



平成28年度決算

加賀市年次報告書



石川県加賀市

祝 北前船

日本遺産認定

日本遺産認定ストーリー
荒波を越えた
男たちの
夢が紡いだ
異空間
加賀市
ほか全国10市町
～北前船寄港地・船主集落～



自然・歴史・伝統が息づく 住んでいたい 来てみたいまち

『将来への備え』



子どもを産み育てたいと思えるまちづくりを進めました

〈子育て安心パッケージの推進〉

平成27年度 家計にやさしく	平成28年度 生活を支援	平成29年度 つながる支援
・保育料の軽減		
・こども医療費助成 ・出産準備手当給付 ・三世代ファミリー同居・近居助成	・第3子プレミアム応援 ・子育て応援ステーション開設 ・かがにこにこパーク基本構想策定	・保育園途中入園円滑受入 ・親子スマイリーネット事業 ・第2子放課後児童クラブ無料化 ・かがにこにこパーク整備工事施工

平成28年度は

●第3子プレミアム応援 (決算額:513万円)

「多子世帯」の経済的負担を軽減するため、18歳未満の子どもを3人以上養育する保護者に対し、18歳未満の子どものうち3番目以降の子どもにかかる放課後児童クラブ(学童クラブ)の保育料を無料化しました。

●子育て応援ステーション「かがっこネット」の開設 (決算額:397万円)

県内で初めて、妊娠期から子育て期まで切れ目ない相談や支援を、同一施設で一体的に行う施設「子育て応援ステーション(かがっこネット)」を開設しました。

子育て応援ステーションの開所式▶



●かがにこにこパーク基本構想策定 (決算額:1,044万円)

こどもが天候に左右されず、楽しく安全に遊べる施設を整備するため、中央公園体育館跡を活用した「かがにこにこパーク基本構想」を策定し、平成30年4月のオープンを目指して整備を進めています。

かがにこにこパークの整備イメージ▶



医療・福祉・介護の連携体制を構築し、 高齢者も安心して暮らしやすいまちづくりを進めました

〈平成28年4月に、加賀市医療センターが開院〉

●医療と介護の連携推進事業 (決算額:434万円)

加賀市医療センター内に、入退院支援・地域医療連携に係る機能に加え、地域包括支援センターのサブセンター等を併設した「地域連携センターつむぎ」を設置し、在宅医療コーディネーターを配置することで、医療と介護の連携を強化しました。



▲加賀市医療センター

●医師招へい推進事業 (決算額:6,876万円)

地域に必要とされる医療を安定的に提供するため、長期的・継続的に医師の招へいに取り組み、将来の優秀な医療人育成に向け自治医科大短期臨床研修医8名、金沢大学医学部実習生6名を受け入れました。

●山中温泉ぬくもり診療所整備事業 (決算額:2億7,307万円)

山中地域の医療体制の低下を軽減し、地域住民が安心して暮らせる医療提供体制の充実を図るため、山中温泉医療センター施設を活用した診療所を整備しました。



▲山中温泉ぬくもり診療所

●介護予防・生活支援サービス事業 (決算額:1億8,325万円)

介護予防サービスのうち「介護予防通所介護」、「介護予防訪問介護」を介護予防給付から地域支援事業に移行するとともに、地域の実情に応じた通所サービス、家事支援サービスを実施しました。

人口減少対策に向けた取り組みを進めました

●縁結び応援事業（決算額：1,011万円）

若者に向けた結婚・妊娠・出産・子育てに関するライフデザイン講座や、独身者や婚活中の子を持つ親を対象に婚活のノウハウを学ぶ婚活セミナーを開催し、若者に結婚観の醸成を図りました。また、結婚を希望する人の出会いをサポートする「かが縁結びさん」を養成し、お見合いに向けた支援を行いました。さらに、出会いの機会を創出する婚活イベントを支援しました。



●移住住宅取得助成事業（決算額：2,379万円）

市内への移住・定住を推進するため、市内で住宅を取得する移住世帯(24世帯、73人)を対象に、建物取得費用の一部を助成しました。

●チャレンジできるまちPLUS KAGA推進事業（決算額：3,746万円）

本市への人の流れをつくる取り組みとして、地域資源等を活用した新たな市場を創出するローカルベンチャー（地方の起業家）の育成を支援するとともに、都市部のNPO法人等と連携し、若者等の自立をサポートする場を提供することで、「チャレンジできるまち」として、移住・定住の促進を図りました。



▲起業家の育成を支援する
「Next Commons Lab加賀」

安全に安心して生活できる環境の構築を進めました

●防災力の強化事業（決算額：2億3,394万円）

市民、防災関係機関、市等が一体となって企画・運営する、総合防災訓練の開催や、防災緊急情報伝達システム（防災行政無線）の整備、防災拠点でもある「セミナーハウスあいらす」に太陽光発電設備システム及び蓄電池設備を設置する等、防災力の強化を図りました。



▲総合防災訓練の様子

●消防力の強化事業（決算額：1億1,198万円）

市民の安心安全を確保するため、老朽化した救助工作車や、山代第2分団と山中第4分団の消防ポンプ自動車を更新する等、消防力や災害対応力の強化と充実を図りました。

更新した救助工作車▶



●KAGAあんしんネット構築事業（決算額：1億449万円）

自家用車を運転できない人も安心安全に通院や買い物に行くことができるように、地域公共交通を充実しました。地域交通空白地域の解消に向け、乗合タクシー「のりあい号」の本格導入を進め、利用者は平成27年度に比べ約3倍になりました。



▲乗合タクシー
「のりあい号」

各地区の特色を活かした市民との協働のまちづくりを進めました

●地区会館整備事業（決算額：1億299万円）

大聖寺地区会館の大規模改修や別所地区会館の耐震実施設計、西谷地区会館の整備に係る実施設計等を行い、地区のまちづくり活動の拠点を整備しました。

改修した大聖寺地区会館▶



行財政改革を進めました

●第2次加賀市総合計画策定事業（決算額:297万円）

「総合計画」とは、市が策定するすべての計画の基本となるもので、加賀市の発展と飛躍のため、計画的にまちづくりを推進していく指針となるものです。平成29年4月からスタートした「第2次加賀市総合計画」は、「基本構想(10年計画)」と「実施計画」の2層構成としています。

【将来都市像(テーマ)】

自然・歴史・伝統が息づく 住んでいたい 来てみたいまち

～地域の強みを活かし、ともに進める 人・まちづくり～

- 【基本方針1】 安心の子育てと地域に根ざした教育による笑顔あふれるまちづくり
- 【基本方針2】 観光と歴史、文化の振興による賑わいのあるまちづくり
- 【基本方針3】 ものづくりと雇用創出で、活力と勢いのあるまちづくり
- 【基本方針4】 いつまでも元気で健やかに暮らし続けられるまちづくり
- 【基本方針5】 みんなが手を取り、いきいきと安心して暮らせるまちづくり
- 【基本方針6】 豊かな自然を守り育てる、美しく快適なまちづくり
- 【基本方針7】 将来を見据えた、効率的な行財政で支えるまちづくり

公契約条例を策定しました

北陸で初めて「公契約条例」を施行しました。これにより、公契約の適正な履行と質を確保し、ワークライフバランスの実現をはじめ、事業者の皆様が取り組んでいる、より良い職場づくり等を後押ししました。

「かが交流プラザさくら」がオープンしました

「かが交流プラザさくら」は、旧加賀市民病院跡施設を活用・整備し、平成29年4月3日にオープンしました。館内には、大小の会議室・調理室・多目的エントランスホール等があり、各種会議・研修・講座・サークル活動等に利用できます。

施設の利用料金は、営業目的等の場合を除いて無料となります。また、利用の際には、事前に申し込みが必要となります。



1階

加賀市シルバー人材センターが就業機会と地域の賑わいの創出等を目的に、「KAGA健食健歩プロジェクト」と連携した、タニタ監修のヘルシーメニュー等を提供するレストラン&カフェを開設します。



▲子育て応援ステーション かがっこネット

【設置施設・入居団体】

加賀市保健センター(健康課)、加賀市子育て応援ステーション かがっこネット、加賀市シルバーワークプラザ、大聖寺まちづくり交流館玄蕃の里



2階



【設置施設・入居団体】

貸し会議室(8室)、加賀市総合サービス株式会社、加賀おやこ劇場、スポーツクラブM.K.ORI-GO、加賀市商工振興会連合会、加賀地域ライフ・サポートセンター、加賀調理師会



4階

4月に、専門学校アリス学園加賀校が開校され、ベトナムやインドネシアの留学生34人が入学しました。



▲専門学校アリス学園加賀校の入学式

『成長戦略』



国内外に向けたPRを強化し、観光誘客を促進しました

●旅行商品企画販売促進事業（決算額：1,600万円）

官民が一体となり、首都圏の大手旅行者や交通事業者に営業訪問を行うとともに、都内ホテルコンベンションホールにおいて、プロモーション会議（参加者約100名）や交流会（参加者約120名）を開催し、加賀温泉郷のPRを行いました。また、大手旅行者とのタイアップにより、加賀温泉郷への旅行商品の企画造成販売を促進し、誘客強化を図りました。

首都圏大手旅行者へのトップセールス▶



●温泉地誘客促進事業（決算額：7,851万円）

山中・山代・片山津の3温泉がそれぞれの特色を活かして取り組む魅力創出や情報発信、源泉の維持管理等に助成しました。また、「総湯」を活用し、若者の利用促進やタイアップ事業等、さまざまな企画を行うことで、3温泉の回遊性を向上させました。

柴山湯・屋形船▶



「観光戦略プラン」の推進により、
平成26年度に比べ、平成28年度は大きな効果がありました。

温泉宿泊施設入込客数は 19.9万人 UP↑
観光消費額は 約94億円 UP↑

●越前加賀インバウンド推進事業（決算額：870万円）

県境を越え、あわら市、勝山市、坂井市、永平寺町と連携して、独自の宗教文化資源や食、温泉、自然の造形美等の観光資源を有効活用し、首都圏や海外からの観光誘客を推進するため「越前加賀インバウンド推進機構」を設立し、海外への観光プロモーションや外国人観光客の受け入れ体制の整備等を行いました。



▲越前加賀インバウンド推進機構設立

●海外都市交流・インバウンド推進事業（決算額：2,487万円）

台湾・シンガポール等の海外都市と、児童生徒との教育交流を行う等、友好交流をさらに深めました。また、国際旅行博や物産展への出展、海外メディアの招へいととも、外国人旅行者が訪れやすい環境を整備し、海外誘客を促進しました。

これらの取り組みにより、市内3温泉への外国人宿泊客数は、平成25年度の28,686人から、平成28年度には61,860人と、3年間で約2倍に増えています。

台湾桃園市との友好都市提携▶



観光振興に向けた取り組みを進めました

●加賀市ガーデンシティ推進事業（決算額：308万円）

地域や事業者との協働と連携による景観まちづくりを進め、花や緑のあふれる魅力ある観光都市を目指し、花飾り作成講習会を開催する等、地域の緑化団体を育成するとともに、花や緑を活かした景観まちづくり活動を行う団体や個人を「もてなしガーデナー」として登録しました。また、市民ワークショップを開催し、ガーデンシティ構想の具体的な緑化デザインを設計しました。



▲花飾り講習会による景観まちづくり(片山津温泉)

『アジアから選ばれる温泉共創地』

IoTを活用した新産業の創出と人材育成を進めました

●IoT推進事業（決算額：1,111万円）

IoT関連技術を活用できる人材育成や同技術を活用した産業高度化の実践等を目的とした推進体制の構築を行いました。また、農業分野では、IoT技術を導入したセンサーをルビーロマンのほ場に設置し、栽培方法の「見える化」を図っていくため、生産環境データ等を関係機関で分析する体制を整えました。



▲IoTセミナーの様子

経済産業省の「地方版・IoT推進ラボ」に認定されました

経済産業省とIoT推進ラボが募集した「地方版IoT推進ラボ」の第一弾選定地域として、加賀市が提案した、加賀市IoT推進ラボ「スマートKAGURAボ(SKL)」が選定されました。



これは、IoTを活用し、市内の各産業分野における付加価値の向上と魅力ある企業の創出及び創業促進を図るため、IT人材を育成する取り組みです。

具体的には、市内小中学校の児童生徒へのプログラミング教育の実施や、社会人やその他学生に向けたIoT講習所とインキュベーションの機能を持つIoT人材育成機関の構想の策定・設立・運営に向けた取り組みを行います。

●ロボット産業推進事業（決算額：169万円）

市内のロボット産業を育成するため、加賀機電振興協会を中心に設立された「加賀ロボット研究会」を6回開催し検討を行うとともに、さがみはらロボット導入センター統括コーディネーターによるロボットセミナーの開催や先進企業視察等を行いました。



▲工場で稼働するロボット

地域資源を活用したメイドイン加賀の展開を進めました

●海外輸出促進事業（決算額：207万円）

市内の中小企業の海外販路開拓等の推進について検討し、必要な取り組みを行うことを目的に「加賀市貿易推進機構」を設立し、有識者等による貿易セミナーの開催や、金沢工業大学と連携した「加賀市産品の海外販路開発に関する市場調査・共同研究」等を行いました。



▲貿易セミナーの様子

雇用の創出に向け企業誘致を進めました

●企業誘致推進事業（決算額：4,189万円）

企業誘致業務に精通した「企業誘致専門官」を、近畿圏と首都圏に配置し、積極的かつ効果的な誘致活動を実施し、既に進出・拡張を表明していた4企業が操業開始したほか、新たに市内1企業が新規創業を開始、大阪の1企業が進出を表明する等、新たに350人の新規雇用の場を創出しました。



▲分校町に新たに進出を表明した
（株）エムケーエンジニアリング

『持続可能なものづくり技術の集積地』

児童生徒の学力向上に向けた取り組みを進めました

●小中学生の教育推進事業（決算額：105万円）

算数、数学の学習を苦手としている児童生徒に対し、学習を支援する「かがっ子土曜スクール」を開催しました。小学5、6年生と中学生の中から希望者を募り、約200名の児童生徒に、基礎的・基本的な演習問題と解答解説及び個別指導等により、学習を支援しました。

「かがっ子土曜スクール」の様子▶



●家庭教育支援事業（決算額：61万円）

子育てに不安や困り感を持つ家庭への支援として、子育ての知識や親として成長するために必要なことを学ぶ講演会や助産師が乳幼児をもつ親に助言等を行う「お出かけ支援事業」を実施しました。

「第2回 加賀ロボレーブ国際大会」を開催しました

平成28年11月11日から3日間に渡り、加賀市スポーツセンターにおいて、「第2回 加賀ロボレーブ国際大会」を開催しました。

当日は、5つの国と地域から289人が参加し、科学とものづくりへの興味・関心を引き起こし、言語の壁を越えた国際的な交流が行われました。



▲「加賀ロボレーブ国際大会」の様子

児童生徒の学力向上とスポーツへの支援に取り組みました

●橋立自然公園運動広場整備事業（決算額：1,286万円）

スポーツを通じた市民の健康増進を推進するため、橋立自然公園運動広場の南側を拡幅し、少年サッカーやグラウンドゴルフ等、青少年から高齢者までを対象とした多目的スポーツ広場を整備しました。

橋立自然公園運動広場▶



「JOCパートナー都市協定」を締結しました

JOC(日本オリンピック協会)と、スポーツ振興における相互協力とオリンピック・ムーブメントを推進する「JOCパートナー都市協定」を北陸の自治体で初めて締結しました。これにより、スポーツを通じた地域の活性化やオリンピックの事前合宿誘致についても、積極的に推進していきます。

JOCパートナー都市協定締結式▶



▲ランナーを応援する間寛平さん

「加賀温泉郷寛平ナイトマラソン」を開催しました

平成28年9月3日に、山中地区において、お笑いタレントの間寛平さんがプロデュースした「加賀温泉郷寛平ナイトマラソン」を開催しました。

これは、全国的にも珍しい夜間に行うマラソン大会で、芸人の方が会場を盛り上げる中、県内外から794人のランナーに参加申込をいただきました。

「北前船」をテーマとするストーリーが日本遺産に認定されました

江戸後期から明治前期にかけ、大阪―北海道間を結び、動く総合商社として各地に繁栄をもたらした「北前船」をテーマとするストーリーが、日本遺産に認定されました。

加賀市には、橋立地区を中心に「北前船」の繁栄を彷彿とさせる北前船主の豪壮な屋敷やまちなみが残り、船頭衆が湯治の際に唄った、松前追分を起源として生まれた「山中節」が伝わる等、「北前船」に関する歴史遺産が数多くあります。



船を新しく造る時に、船大工から船主に贈られた「北前船」の船模型



～「北前船」をテーマとするストーリーの概要～

日本海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。

また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京等の遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした「北前船」の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

加賀市には「北前船」に所縁のあるものが数多く残っています



山中節(市無形民俗文化財)

山中節の起こりは、「北前船」の船頭衆が山中温泉での湯治の際、松前追分を唄い、浴衣娘達が真似て山中詠りで唄ったものとされています。



加賀市加賀橋立伝統的建造物群保存地区

北前船主や船頭たちが居住した集落。明治5年に大火にあうが、近世末から明治初頭の地割が今日まで残り、豪壮な家屋や特色ある石垣等で構成されたまちなみが歴史的な景観を形成しています。



旧酒谷長兵衛家住宅

橋立地区内に現存する最大の北前船主邸。「北前船」の隆盛を示す豪壮な建物。今年で築141年になります。

昭和58年に「北前船の里資料館」として開館しています。



瀬越町白山神社所蔵船絵馬

船絵馬は、船主や船乗りが航海の安全祈願や無事に帰郷できたことを感謝するために神社に奉納したものです。



平成28年度決算「加賀市年次報告書」

発行：平成29年12月 石川県加賀市

編集：加賀市総務部企画課企画係 (〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町二41番地)

TEL：0761-72-7830

E-mail：kikakukakari@city.kaga.lg.jp

ホームページ：http://www.city.kaga.ishikawa.jp/

※加賀市ホームページでもご覧になれます